



「福祉」とは

高田中学校 三年 松尾 剛琉 たける

みんなの幸せ願って

最近、テレビを見て思ったことがある。ある芸人さんがおばあさんの役を演じている。腰を曲げて歩いたり、耳が聞こえにくい演技をして、耳元で大きな声で話をされても聞こえないふりをしたりする。以前はそれが面白いと思っていたが、自分の中で高齢者への見方が変わり、こういった類いの笑いは失礼だと思うようになった。

私は去年の秋に学校行事の職場体験で老人福祉施設に行き、介護の体験をさせてもらった。

最初は正直どう接して良いのか全く分からなかった。しかし、そのような不安とは正反対に、利用者の方々から話しかけていただいたおかげで、徐々にコミュニケーションをとることができるようになった。そして、利用者の方々と接していくうちに、あることに気がついた。それは、「年を重ねられた方も私たちも全く同じ」ということだ。

日頃軽い気持ちで口にする「耳が遠くてお年寄りみたいだよ」と

か、高齢者のまねをして笑いをとるなどは、日頃何も考えていないならば、単に「おもしろい」で終わってしまいがちだ。しかし、誇張して笑いに変えてみることでなく、見方を変えれば、これは長く生きてこれ、年を重ねた結果なのであり、敬意を払うことなのだと思ふ。

年を重ねるといふことは、全然悪いことではなく、その分たくさん経験を重ねてこられたということである。生活に不便を感じているならば周囲の人達がサポートすればいいだけではないだろうか。

今回、職場体験に参加して、「福祉」とは、自分のことだけでなく、周りの人も大切に思い、一人ひとりそれぞれの人の考え方、生き方を尊重し、「ともに生きる力」を培うことだと思つた。



【先生のコメント】  
コロナ禍を経て、今年度は進路学習の一環である職場体験が実施されました。

「職場体験」は、働く人々と接したり、社会において働くことの大切さ、さまざまな仕事を通して社会の成り立ちを理解する大切な学習活動です。そんな中で剛琉さんは利用者への介護体験を通して人と人の繋がりの中から自分の人権意識を見直す機会を得たことが伺えます。これからも多くの体験や学習を通して人権尊重の意識を高めていってほしいです。

※この作文は、松尾さんが二年生のときに書いたものです。

「花のくぼた」  
久保田 智美さん

切り花や花鉢、観葉植物などを取り扱っている「花のくぼた」。久保田智美さんは、実家が花屋の夫との結婚を機に、花に携わるようになった。

「花のメンテナンスや花束・アレンジメントの作成、ラッピングなどを行っています。花によってメンテナンスの方法が違いますので、夫から聞いたり、講習会に行ったりして勉強しました」

会話を重ねてベストな花を「講習会では、トレンドの色やアレンジメントの形についての話もあるので、花束などを作る際は意識しています」

花に携わるようになって16年、日々知識を広げている久保田さん。接客の際は

意識的に会話を重ね、要望に合った商品を提供している。

「例えば『かわいい感じ』でイメージする色や花は人によって違います。自分の感覚とお客様のイメージが違うこともあるので、求められている色合いなどを丁寧に聞いて、要望に応えられるようにしています」

笑顔 満開

春は卒業式や入学式などで、花がイベントを彩ることが多い季節。子どもたちが親や先生に渡すための花を買いに来ることもある。「花は渡す側も、もらう側も笑顔になれる。花を通して、お客様の大切なイベントに笑顔を提供していると思うと、とても嬉しいです」

花は豊かさをもたらしてくれる

小さい頃から花が大好きだったという久保田さん。花の優しい香りや好きな色合いに癒されてほしいと、にこやかに話してくれた。「花は食卓に二輪あるだけでも、暮らしを明るくしてくれます。心を豊かにしてくれる花を身近に感じてもらえるように、これからも夫婦で頑張りたいです」



くぼた ともみ  
趣味は読書や手芸、動画鑑賞。  
【座右の銘】  
笑う門には福来る  
【みやま市にひとこと】  
年代問わず、あいさつが気持ちよくて、人が温かいところが良いと思います。

**みやま文芸**

青門瀬高俳句会  
女山里山くすくす笑いはじめけり  
吉岡 木骨

香り濃き友手作りの蓬餅  
池田 芳水

水仙や終の棲家となる狭庭  
高巢 幸子

正真正銘宮崎産の白子干  
阿部 和子

手話の娘の指先おどる梅真白  
戸塚貴美代

霧島の嶺嶺よりもらう春の水  
橋本美恵子

三陸は十三回忌春いまだ  
河野 辰男

**みやま短歌会**  
あるかなき夜汽車の音の通り過ぎ  
月と語らう縁側の窓  
松尾 逸央

るり色の翼ひろげて舞うは誰  
葬送の夜の夢の中に  
三栗野ミユキ

この地の下に眠れる人を思い思い  
もんじゃやきを黙して食らう  
宮本 明生

名に添わぬ季節に咲きぬ花ありぬ  
皇帝ダリア木枯らしに立つ  
宮地幸二郎

嫁からのヒートベストのプレゼント  
身も心もホッコリと八十六  
中村 智美

※俳句・短歌は市内の団体から提供いただいたものを順次掲載しています。

人権相談(無料)  
〜ひとりりで悩んでいませんか〜

【人権何でも相談所】

■日時 4月19日(水)午後1時〜4時

■場所 みやま市立図書館

■相談内容 いじめ、体罰、部落差別・男女差別・外国人差別などの差別問題、家庭内(夫婦、親子、結婚、離婚、扶養、相続など)・借地借家・相隣間のもめごと、悩みことなど

【女性相談所】

■日時 4月13日(水)午前10時〜午後3時

■場所 福岡法務局柳川支局

■相談内容 原則として女性からの相談 ※女性の人権擁護委員が相談に応じます。

【常設相談】

■時間 午前8時30分〜午後5時15分 (土、日、祝日を除く)

■場所 福岡法務局柳川支局

■相談担当者 法務局職員または人権擁護委員

■相談電話番号 (TEL)0570-003110

■福岡法務局柳川支局 (TEL)72-2640

人権イメージキャラクター  
AKEN かなもも さん さん さん さん さん